

## アーサー王物語群における「聖杯物語」の比較研究 － 3つの「聖杯物語」を対象に－

宇田川 翔輝

アーサー王とその騎士たちの物語は今なお愛されているが、現代広まっている物語の形式は15世紀の「アーサー王の死」という作品に依っている。その中には、騎士が不思議な力を持つ聖杯を追い求める物語が含まれるが、これは、「アーサー王の死」以前にヨーロッパ各地で著された「聖杯物語群」を原型としている。しかし、そのうち特に初期の作品の構成は「アーサー王の死」とは大きく異なっているうえ、各作品の同一性や差異を総覧する研究が、これまで見られなかった。

本研究では、聖杯物語に属する3つの作品（「ペルスヴァルまたは聖杯の物語」、「エヴロウグの子ペレディル」、「パルチヴァール」）についてそれぞれプロット化したうえで、構成上の共通点や相違点を列挙した。また、「アーサー王の死」と初期の作品の構成の差異などについても検討した。

結果として、これら3作品には共通する13項の基本的構成（父の栄光と死/森で育つ少年の旅立ち/テントの乙女への狼藉/アーサー宮廷への最初の訪問/老人による教えの伝授/女伯爵の城の救出/聖杯の城での問いの失敗/従姉との出会いと失敗についての非難/テントの乙女の名誉回復/雪の血による自失と、アーサーの宮廷への帰還/醜い乙女と謎の騎士の誹謗による、2人の主人公の出発/2人目の主人公の塔を守る戦いと、休戦の代わりに与えられる聖杯への冒険/聖金曜日の叱責と、隠者の庵での滞在）が存在することを発見でき、それぞれの作品の相違点についても詳細に列挙することができた。

しかし、数多く存在する聖杯物語群の作品の全てを扱うことは出来なかったうえ、聖杯観の変化において重要な作品（「アリマタヤのヨセフ」など）を含めた比較を行うことができなかった。また、作品同士の時代的・地域的な縦の繋がりを念頭に置いた比較までは行うことができなかった。

(指導教員 村田 光司)